＜実践例　３＞　第３学年　　平成３０年１１月　　（関　東　朋　之）

１．単　元　　財務大臣になって国の予算を作ろう！！

２．単元の目標

（１）財政や日本の諸課題に関する資料の中から、予算案を作成するのに必要な情報を抽出したり、財政及び租税の役割について市場との関係や公平性などの観点から説明したりすることができる。（知識及び技能）

（２）日本社会の課題を踏まえた予算案テーマを設定するとともに、予算案テーマと歳出・歳入項目の増減に整合性がある予算案を作成し、論理的に説明することができる。（思考力・判断力・表現力等）

（３）平成３１年度の国家予算案をおおまかに作成する疑似体験を通して、日本の財政の現状や少子高齢社会など日本社会が抱える諸課題に関心を持つとともに、今後の日本社会のあるべき姿を意欲的に考えようとする。（学びに向かう力、人間性等）

３．指導にあたって

（１）生徒観

社会科では、「社会的事象を多角的に捉え、民主主義を尊重し、よりよい社会を求めて、公正に意思決定できる生徒」の育成を目指して授業に取り組んできた。特に公正な意思決定に必要な論理的に考える力を育成する手立てとして、根拠と理由付けを示して主張を述べる三角ロジックを一年生のときから様々な場面で用いてきた。その効果もあり、特に配慮しなくても、比較的適切に三角ロジックを用いて主張を展開することができるようになっている。公民的分野の学習では、「あなたは国会議員です。今後日本は外国人労働者を増やしていくべきだと思いますか」「ネパール国籍の女子の中学校への入学を断った市教育委員会の判断は適切か」「あなたが国会議員なら改正臓器移植法に賛成か反対か」といった、公の立場から判断を迫る学習課題を頻繁に設定し、多角的な視点で公正に意思決定する経験を積ませている。そうした場面では、三角ロジックを基礎とした論理的な思考力を活かして議論を楽しむ姿がみられ、民主主義を担う基礎的な資質が育成されてきているように感じる。

三年生も後半になり、教科で育てる資質・能力として掲げている「提案された解決策のいずれに対しても、起こりそうな帰結に至るまでのシナリオを構築できる」「その問題を可能な限り広い文脈において見ることができる」といった、未来を予見する力を養う段階にきている生徒たちである。

（２）教材観

本単元（「財務大臣になって日本の予算を作ろう！」）は、財務省が推進している「財政教育プログラム」による授業の１つである。２０１５年よりスタートし、今年度３年目を迎える。全国の附属学校を中心に試行されているが、公立の小中高校への展開も目指されている。内容の概要は、グループで立てた予算案のテーマに従って、国家予算一般会計の歳出項目（社会保障・地方交付税交付金・公共事業・防衛・教育）と歳入項目（所得税・消費税・法人税）の増減をタブレット端末を使って考えるというものである。昨年度、本校でも実施したが、今年度は、社会保障の項目（年金・医療・介護・子ども子育て・生活保護等）の増減も考えるように改められている。特に、山形財務事務所の方が各グループ

の予算を評価してくださり、自分たちの予算案を見直す機会があることが貴重である。

現行学習指導要領では、「財政の歳入・歳出における内容を具体的に取り上げ，財政が国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを踏まえながら，財政支出に対する要望は広範多岐にわたり，そのための財源の確保が必要であるが，国や地方公共団体の財源は無限にあるわけではないことに気付かせ，これらの学習の上に立って，財源の配分について，効率や公正の考え方に基づいて考えさせることを意味している」とあり、この箇所についての理解を促すにも格好のプログラムである。

（３）指導観

本単元での授業における資質・能力を発揮している姿を、以下のように考えている。

日本社会の課題を踏まえた予算案テーマを設定するとともに、予算案テーマと歳出・歳入項目の増減に整合性がある予算案を編成し、論理的に説明することができる。

①本単元で付けたい資質・能力

本単元では、教科で育てる資質・能力として掲げている「提案された解決策のいずれに対しても、起こりそうな帰結に至るまでのシナリオを構築できる」「その問題を可能な限り広い文脈において見ることができる」に重点を置いていきたい。

例えば、予算案を作成するにあたり、以下のような思考がみられるのではないかと考えている。

「持続的な経済発展」を目指す国の姿と捉え、「人口減少」の解消をターゲットの課題とし、少子化対策として、社会保障の子育て・子どもの項目を増加させようとした。しかし、実際に子育てを手厚くして子どもが増えているのかという反論がグループ内で出た。そこで、もはや人口減少は止められないこととして受け入れ、外国人労働者やＡＩによって事態を解決してくように予算を配分していってはどうかということになった。財源は、少子化対策にかけていた予算と、法人税の税率を上げることで補う。外国人労働者やＡＩが多くなれば、人件費はカットされるし、企業も納得してくれるだろう。ただし、外国人が増えるとその子どもの教育なども問題になるので、日本語教育を充実させる必要もあるだろう。また、治安や社会保障の問題も出てくるであろうから、そのフォローも予算として組んでいく必要も出てき

予算案を作成することにより、以上のような、帰結にいたるまでのシナリオを構築したり、問題を可能な限り広い文脈において見たりする思考が展開されることを期待したい。

②手立て

①においてあげたような思考を生み出すために、事前に財務事務所の方が念頭に置いている予算案の評価基準を生徒に示す。評価基準は以下の通りである。

ⅰ　日本をどういう国にしたいかが、しっかりと語られているか。

ⅱ　ⅰで語った理念に整合した予算の上げ下げになっているか。

ⅲ　主張に納得感があるか。

・根拠やデータへの言及、実体験への言及、現実の政策への言及比較

・プラスの影響（将来の姿の具体性）の説明、マイナス影響へのフォロー

以上の評価基準に照らして予算案が作成されているかを机間指導の中で留意していきたい。最後に、グループを離れて自分の予算案を作成することで、これまでの思考の過程を見直す契機とし、学びの深まりが見られることを期待したい。

４．単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
財政や日本の諸課題に対する資料の中から、予算案を作成するのに必要な情報を抽出したり、財政及び租税の役割について市場との関係や公平性などの観点から説明したりしている。	日本社会の課題を踏まえた予算案テーマを設定するとともに、予算案テーマと歳出・歳入項目の増減に整合性がある予算案を作成し、論理的に説明している。	日本の財政の現状や少子高齢社会など日本社会が抱える諸課題に関心を持つとともに、今後の日本社会のあるべき姿を意欲的に考えようとしている。

５．学習計画（７時間計画）

★特に本単元で付けたい、教科の資質・能力に関わる姿とそのための手立て

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
1　学習課題を知り、課題解決に向けて必要な基本的知識を得る。（２）	・各歳出・歳入項目を増やしたり減らしたりすることがどのようなことに結び付くのか考えながら聞いている。（知・技）	・意欲付けのために、自分たちで必要な情報とはどのようなものか考えさせる。
2　めざす国の姿や日本の課題を基に、予算案テーマを考える。（１．５）	・大きな政府と小さな政府の概念を用い、概算要求書や新聞などの諸資料から、優先すべき日本の課題を見いだし、予算案テーマを設定している。（知・技）（思・判・表）	・大きな政府と小さな政府の意味を理解しやすいように、表に整理したり、これまでの日本の予算の特徴を解説したりする。
3　個人で予算案作成をする。（０．５）	・グループで設定した予算案テーマを基に、整合性があるように個人で予算項目の増減を考えている。（思・判・表）（学・人）	・増減を考えやすいように、大まかに増やすか減らすかを考えても良いと指示する。
4　山形財務事務所の方のお話を聞き、予算案テーマや予算項目の増減を見直す。（１）	・財務事務所の方のお話を聞きながら、日本の財政の現状や特色などの知識を確かにしたり、新たな視点を見いだしたりしている。（思・判・表）（学・人）	・山形財務事務所の方のお話に効果を持たせるために、事前の打ち合わせなどでお話の視点などを確認しておく。
5　４人グループで予算を作成する。（本時）（１） 6　よいと思った予算案２つに投票する。 7　自分の予算案を作成し、振り返りを書く。（１）	★日本社会の課題を踏まえた予算案テーマを設定するとともに、予算案テーマと歳出・歳入項目の増減に整合性がある予算案を作成し、論理的に説明することができる。（思・判・表） ・国の予算は有限であることや、誰にとってもよい税制を設定するのは難しいことなどに気付いたり、実際の予算の使われ方や消費税の増税に関心を持ったりしている。（知・技）（学・人）	★整合性のある予算にするために、事前に評価基準を明示したり、机間指導で矛盾点などを指摘したりする。 ・単元を通しての自身の変化を捉えるために、最初の自分の予算案を書かせておくとともに、振り返りの指導言を「単元を通して、見方や考え方が変わったり、新しく気付いたりしたことを中心に」とする。

６．本時の学習（６／７）

（１）目　標

日本社会の課題を踏まえた予算案テーマを設定するとともに、予算案のテーマと歳出・歳入項目の増減に整合性がある予算案を作成し、論理的に説明することができる。

（２）過　程

<table>
<tr><th>学習活動【学習形態】</th><th>目指す生徒の姿</th><th>教師の手立て</th></tr>
<tr><td colspan="3">皆さんは、財務大臣です。国民からどのように税金を集めて、集めたお金をどのように使えば日本の未来を良くできるか、ということを考えながら、グループのみんなで来年度（平成３１年度）の国の予算を作ってみましょう。</td></tr>
<tr><td>１　４人グループで予算を作成する。</td><td>★日本の諸課題を踏まえ、予算案テーマを適切に設定している。
・地方も元気な日本
・みんなが公平に安心して暮らせる日本
・Society 5.0 に向けて　など</td><td>★テーマを適切に設定できるように、本単元で与えられた資料だけでなく、これまでの学習を振り返りながら、日本の諸課題を見いだすように指示する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">＜重点を置いた社会科の資質･能力を発揮している姿＞
★日本社会の課題を踏まえた予算案テーマを設定するとともに、予算案のテーマと歳出･歳入項目の増減に整合性がある予算案を作成し､論理的に説明することができる。
例）テーマ「持続的な経済発展～人口減少対応予算～」歳出：社会保障子ども子育て減･外国人福祉増（手厚くしても少子化は解消されない･外国人に就労の機会を与える政策）･科学技術増（ＡＩロボット開発のため）･教育増（外国人子女対応のため）･法人税増（国の施策によって企業の人件費が減少するため）</td><td>★整合性のある予算にするために、事前に評価基準を明示したり、机間指導で増減の理由を聞き出したりする。</td></tr>
<tr><td>２　４人グループで立てた予算案を発表し、財務事務所の方の評価を聞く。</td><td>・良いと思う予算案２つに投票することを念頭に、他のグループの予算案について検討している。</td><td>・グループ間の予算案を比較しやすいように、対立軸を切り出し、予算案の特色に応じた発表順にする。</td></tr>
</table>

（３）評価とその方法

根拠のある適切な予算案テーマが設定できているか、増減の項目に整合性があるかを、ワークシートや発表の内容から評価する。

７．授業を終えて

【成果と課題　～事後研究会より～】

〇トレードオフを学ばせるのにいい。

〇後ろの子が「深い学び」をしました。感想をいっていた。深い学びってどんなこと？と聞いたら、はじめ、自分のことだけをよくしようと思って考えていたら、どんどん話が広がっていって、日本全体の話になった。自分と社会のつながりを感じたようだった。

〇たいへん面白かった。探究型学習という視点で私はみた。三角ロジックを通した論理的思考というのが育っているのを感じた。発表の中では根拠を示さないまでも、聞けば言えるような、根拠ある予算を作成していた。探究型学習でめざすところは、最終的に専門用語で意見を言うこと。そうした言葉がどんどん飛び出していて、高校の政経、現代社会でもそのままいけるような内容もあった。

〇財務局の方が、プラスの評価をしてくれるのもとてもよいと思った。外部の評価が何よりだ。高校ではより主権者教育を意識してやっていく。是非、こういう状態で送り出して欲しい。中学校段階では、こういう感じで充分だ。

▲最後の質問のやりとりを、もっと全体でやると面白かっただろう。制限があるから仕方ないが、もったいないなと思った。いろいろやれる授業だと思う。

▲三年生の学習の本当に最後に、社会科の学習の集大成としてやらせてみても面白いと思った。グランドデザインなので、血の通った予算にならないところがある。「申し訳ない、ごめん、予算付けられないんだ」という感じがあるといいなと思う。

・県で予算折衝をやっていた。それこそ、ジグソー学習なんかを組んで、予算の分捕り合戦のようなことをさせても面白いと思った。

【生徒が新聞投書に書いた文章より】

納税したくなる施策必要

　消費税１０％に引き上げるか否か。最近よく報道で耳にする話題だ。私は計算が面倒で、定価よりも高いお金を払わなければならず経済的な負担がかかるため、以前は増税案に反対だった。

　しかし、学校の授業をきっかけに考えが変わった。その授業は、財務大臣になって国の予算案をつくるという内容だ。本年度の国家予算を見ると、国が直面するさまざま問題が見えてきた。特に重要な問題は社会保障費の増加で歳出が増え、税収ではまかなえない分を借金で補っていき、借金が増えてしまうとうことだ。

　このような課題を解決するためにはやはり増税が妥当である。けれども、増税した分を借金返済のためだけに使ったら、国民が増税の恩恵を受けることはない。国民の負担と社会保障費の恩恵が一致せず、国民はますます税に対して嫌悪感を抱く。おそらくこれが日本の現状ではないだろうか。

　国や私たちが受ける社会福祉は国民の税によってつくられているものだ。負担にはなるが、負担をした分だけ私たちの生活が豊かになる。そこに税を納める理由を見いだすことができるのだと思う。国は、将来世代に向けて借金の増加を防ぎ、国民が嫌悪感を感じずに、税を納めたい思えるような、受益と負担の一致に取り組むべきだ。